

平成21年度病虫害発生予報第2号の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生動向についての予察情報及び病虫害防除に関する栽培管理について解説します。

病虫害防除の主な留意点

- ・ 前月（4月）の気温は、全国的に高く推移したことから、農作物の生育が早くなると同時に、病虫害の発生が多くなる環境となっていますので、病虫害の発生が早まったり、多くなることが懸念されます。
- ・ 今後の病虫害発生を効率的かつ効果的に抑えるためにも重要な時期なので、各作物ごとに徹底した防除を実施してください。
- ・ また、薬剤防除を実施する場合には、病虫害が薬剤に対する抵抗性を発達させないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- ・ なお、天候の1ヶ月予報では、平均気温は、北海道から九州にかけて高くなると予想されています。降水量及び日照時間は全国的に平年並と予想されています。
- ・ 都道府県の発生予察情報に注意し、地域ごとの防除要否を見極めて、適切な病虫害防除を行ってください。

用語の解説

1. 【発生量（程度）】

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

2. 【地域】

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北東北：青森県、岩手県、秋田県
南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

- ・ 甲信：山梨県、長野県
 - ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
 - ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
 - ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 - ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 - ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
 - ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
- 北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
- 南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

【稲】

- ・ 縞葉枯病の発生は近畿の一部で「多い」、北九州の一部で「多い」又は「やや多い」、北関東及び東海の一部で「やや多い」と予想されます。これらの地域では、本病の病原ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生が多いので、本虫の防除を行い、発病株が認められた場合には早期に抜き取り、処分してください。
- ・ 本田に放置したままの補植用取置き苗は、いもち病の伝染源となるので、早期除去を徹底してください。
- ・ また、薬剤を使用する場合は、いもち病で一部の薬剤に対する耐性菌が認められているので、都道府県から発表されている耐性菌の分布情報を参考に、薬剤を選定してください。
- ・ なお、本田において除草剤を使用する際は、単一の剤を連続使用せず地域ごとに実態に合わせた薬剤を組合せ、使用に当たっては、止水期間を1週間程度とる、止水中の薬剤の流出を防止するなどの措置を講じてください。

【麦】

- ・ 赤かび菌は開花期の穂に感染しやすく、この時期に降雨が続き平均気温が高い（18～20℃）と多発します。
- ・ 今後、出穂期を迎える北海道及び東北では、麦の種類毎に以下の時期で最初の防除を実施してください。
 1. 小麦：開花を始めた時期から開花期までの間
 2. 二条大麦：穂揃い期の10日後頃
 3. 六条大麦：開花を始めた時期から開花期までの間
- ・ 赤かび病の防除は、適期を逃さずに行うことが重要であり、防除適期に降雨が多い場合であっても、短い晴れ間を利用するなど、確実に防除を実施してください。
- ・ 麦類の生育は、北海道及び東北を除き、赤かび病の最初の防除適期である開花期を終えています。本病の発生状況に応じて追加の防除を実施してください。

【果樹】

(果樹共通)

- ・ 果樹カメムシ類の発生は四国、九州の一部で「やや多い」と予想されます。今後、気温が高温で推移する場合には、果樹園への飛来時期が早まる可能性があるため、果樹園の観察をきめ細かく行い、飛来初期からの防除を徹底するよう心掛けてください。

(かんきつ)

- ・ かいよう病の発生は「平年並以下」となっています。また、今後の発生も「平年並以下」と予想されます。伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分してください。特に、本病は降雨や強風により発生が助長されるので、強風雨が予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。
- ・ そうか病の発生は「平年並以下」となっています。また、今後の発生も「平年並以下」と予想されます。なお、既に発生が見られる園地では、伝染防止のため、発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分するとともに、薬剤散布を実施してください。
- ・ ミカンハダニの発生は南関東及び近畿の一部で「やや多い」と予想されるほかは、「平年並以下」の発生と予想されます。なお、今後、降雨が少なく、高温条件となった場合には、多発することが懸念されるため、発生初期での防除を実施してください。

(りんご)

- ・ 腐らん病の発生は北東北及び甲信の一部で「やや多い」と予想されます。病患部の削り取り及び罹病枝の剪除を行い、措置部には薬剤を塗布してください。削り取った病斑や剪除した枝は、土中に埋めるなど適切に処分してください。また、雪害による損傷部、剪定痕等にも薬剤を塗布してください。
- ・ リンゴハダニの発生は「平年並以下」と予想されます。発生量に応じて薬剤散布を実施してください。

(なし)

- ・ 黒星病の発生は南関東、北陸、東海、近畿及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。発病葉、発病果及び発病した新梢は伝染源となるので除去し、適切に処分してください。また、降雨が続くと感染が拡大するので、散布間隔が開き過ぎないように降雨の合間に薬剤を散布してください。
- ・ ナシヒメシンクイの発生は南関東の一部で「多い」と予想されます。地域のフェロモントラップでの誘殺状況に応じて、適期に防除してください。
- ・ ハダニ類の発生は「平年並以下」と予想されます。発生量に応じて薬剤散布を実施してください。

(もも)

- ・ せん孔細菌病の発生は甲信の一部で「やや多い」と予想されます。罹病枝の除去を確実に行ってください。また、本病は、降雨や強風により発生が助長されるので、降雨の合間を見て薬剤散布を実施してください。

- ・ モモハモグリガの発生は北陸の一部で「多い」、甲信の一部で「やや多い」と予想されるほかは、「平年並以下」と予想されます。産卵後から若齢幼虫期をとらえた薬剤散布を実施してください。

【茶】

- ・ 一番茶が終了し、気温が上昇するとともに病害虫の活動が活発となってきます。病害虫の防除にあたっては、ほ場観察を行い発生を把握するとともに、都道府県の病害虫防除所が発表する予察情報を参考に、適期防除に努めてください。
- ・ クワシロカイガラムシの発生は「平年並以下」と予想されます。今の時期は1年で最も防除効果が期待される防除期です。多発園地では、ふ化幼虫の発生状況の観察や病害虫防除所等が発表する情報を参考に防除適期を見極め、丁寧な薬剤散布を実施してください。
- ・ チャノコクモンハマキの発生は東海、近畿及び南九州の一部で「やや多い」、チャハマキの発生は南九州の一部で「やや多い」と予想されます。地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考に、誘殺数が最も多い日からの7～10日後を目安に防除してください。
- ・ カンザワハダニの発生は北九州の一部で「多い」と予想されます。この時期は、ケナガカブリダニ等の天敵による密度抑制効果が期待できますが、凍霜害を受け、カンザワハダニの多発が予想される園地では、早めの防除を心掛けてください。
- ・ チャノミドリヒメヨコバイの発生は南九州の一部で「多い」、東海の一部で「やや多い」、チャノキイロアザミウマの発生は北九州の一部で「やや多い」、チャノホソガの発生は東海及び南九州の一部で「多い」、近畿の一部で「やや多い」と予想されます。これらの害虫については、二番茶の萌芽期から開葉期の防除が重要です。ほ場観察での発生観察に努め、適期防除に努めて下さい。

【野菜】

施設栽培

- ・ 施設栽培では、施設内の温度や湿度条件により、病害が発生しやすい場合があります。施設内の温湿度管理を適切に行い、過度なかん水の回避、循環扇の設置、換気等により過湿を防止し、病害の発生しやすい環境を作らないようにしてください。
- ・ 病害の伝染源となる罹病葉及び罹病果を発見したときは、施設外に除去し、土中に埋める等、確実に処分してください。特に、ウイルス病の罹病株は、早期に抜き取り、他の病害と同様に確実に処分してください。
- ・ また、ウイルス病の病原ウイルスを媒介するアブラムシ類、コナジラミ類及びアザミウマ類の発生抑制は、ウイルス病防除対策としても効果的です。これらの害虫の発生源となる施設内及び周辺の雑草を定期的に除草するとともに、ウイルス罹病株の早期抜き取りに努めてください。さらに、これらの害虫（保毒虫）の野外への飛び出しを防ぐために、施設開口部に防虫ネットを設置し、栽培終了後は施設の蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出してください。
- ・ 施設栽培における主な病害虫の発生予想は、次表のとおりです。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病害虫及び対象地域

| 作物名／病害虫名 | 発生が多い地域 | 発生がやや多い地域 |
|-------------|---------|---------------|
| トマト | | |
| 疫病 | 四国 | --- |
| 灰色かび病 | 南関東、四国 | 北関東 |
| 葉かび病 | --- | 北九州 |
| コナジラミ類 | --- | 近畿、四国、北九州 |
| アブラムシ類 | --- | 南関東、甲信、中国、北九州 |
| なす | | |
| すすかび病 | --- | 四国 |
| タバココナジラミ類 | 四国 | --- |
| アブラムシ類 | --- | 近畿 |
| マメハモグリバエ | --- | 四国 |
| ピーマン | | |
| タバココナジラミ類 | 四国 | --- |
| ミナミキイロアザミウマ | 四国 | --- |
| アブラムシ類 | 四国 | --- |
| きゅうり | | |
| つる枯病 | 四国 | --- |
| うどんこ病 | 北九州 | --- |
| 褐斑病 | 四国、九州 | --- |
| アザミウマ類 | --- | 北九州 |
| アブラムシ類 | --- | 甲信 |
| いちご | | |
| 灰色かび病 | --- | 南東北 |
| うどんこ病 | 南九州 | 南関東 |
| アブラムシ類 | --- | 南九州 |
| ハダニ類 | 南九州 | 北陸 |

露地栽培

- ・ 露地栽培においては、気象の影響を受けやすいことから、今後、周期的に変化する天候に注意し、病害虫の早期発見及び早期防除に努めてください。

- ・ また、罹病株や病害により枯死した植物体は、病害の感染源となるので、早期に抜き取り、ほ場から除去し、土中に埋める等確実に処分してください。

(キャベツ)

- ・ 菌核病は病斑上に形成された菌核が次作の伝染源となるので、発病株は、菌核が形成される前に早期に抜き取り、土中に深く埋める等、確実に処分してください。
- ・ ヨトウガ及びコナガは薬剤への感受性が低下しやすいので、薬剤防除を実施する場合には、薬剤への抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、合成性フェロモン剤での交信かく乱法による防除を行う際は、安定的な効果を得るためには、まとまった広範囲の地域に交信かく乱剤を設置してください。なお、BT 剤は、若齢幼虫期に有効であることから、発生の初期に散布するよう心掛けてください。

(たまねぎ)

- ・ 白色疫病及びべと病は過湿状態が病害の発生を助長するので、ほ場の排水を良くするように努めてください。被害株は伝染源となるので、早期に抜き取り、ほ場から除去し、適切に処分してください。
- ・ ネギアザミウマは薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用を避けて下さい。また、薬剤を散布する場合は、葉裏や下位葉にも薬液が十分にかかるよう丁寧な散布を心掛けてください。

(ねぎ)

- ・ さび病は低温多雨が続くと発生が多くなるので、天候の推移に注意し、早期発見、早期防除に努めてください。また、肥料切れは草勢が低下して本病が発生しやすくなるので、栽培管理に注意してください。

(レタス)

- ・ 灰色かび病は 耐性菌の出現を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用を避け、系統の異なる薬剤を組み合わせた薬剤防除を実施してください。
- ・ 露地栽培における主な病害虫の発生予想は、次表のとおりです。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病害虫及び対象地域

| 作物名／病害虫名 | 発生が多い地域 | 発生がやや多い地域 |
|----------|---------|-----------|
| キャベツ | | |
| 菌核病 | 近畿 | ―― |
| アブラムシ類 | 南関東 | ―― |
| ヨトウガ | 南関東 | ―― |
| コナガ | 南関東 | ―― |
| たまねぎ | | |
| 白色疫病 | ―― | 近畿 |

| | | |
|---------|-----|-------|
| べと病 | 近畿 | 四国 |
| ネギアザミウマ | --- | 甲信、近畿 |
| ねぎ | | |
| さび病 | --- | 近畿 |
| レタス | | |
| 灰色かび病 | --- | 四国 |

【花き類】

(きく)

- ・ 白さび病の発生は近畿及び南九州の一部で「やや多い」、ハダニ類の発生は南九州の一部で「多い」、アブラムシ類の発生は南九州の一部で「多い」と予想されます。ほ場内でのこれら病害虫の発生状況を観察し、適時適切な防除に努めてください。

【その他】

前回（平成 21 年 4 月 23 日）以降、各都道府県が発表している発生予察情報は下記のとおりです。

- ・ 注意報

| 発表月日 | 県名 | 作物名 | 病害虫名 |
|----------|-----|-----|--------------|
| 4 月 23 日 | 島根 | 水稲 | ヒメトビウンカ・縞葉枯病 |
| 5 月 1 日 | 大分 | ねぎ類 | ネギアザミウマ |
| 5 月 1 日 | 和歌山 | 水稲 | 縞葉枯病 |
| 5 月 1 日 | 埼玉 | なし | ナシヒメシンクイ |

- ・ 特殊報

| 発表月日 | 県名 | 作物名 | 病害虫名 |
|----------|----|------|------------------|
| 4 月 28 日 | 沖縄 | ピーマン | タバココナジラミバイオタイプ Q |

＜平成 21 年度の病害虫発生予報の発表日＞

第 1 号：4 月 23 日（木曜日）・・・発表済み

第 2 号：5 月 14 日（木曜日）・・・今回発表

第 3 号：6 月 11 日（木曜日）

第 4 号：7 月 9 日（木曜日）

第 5 号：7 月 23 日（木曜日）

第 6 号：8 月 6 日（木曜日）

第 7 号：9 月 10 日（木曜日）

第 8 号：10 月 8 日（木曜日）

第 9 号：11 月 12 日（木曜日）

第 10 号：2 月 18 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班大岡，城島

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>